

パトロール従事者用  
平成 30 年 10 月 30 日

# パトロールマニユアル

「自分たちのまちは自分たちで守る」

## 目次

第1パトロールってどんなことをするの	1
1 パトロールの目的と種類について	1
2 基本的な心構えについて	2
3 パトロールの種類について	3
4 パトロールの服装や持ち物	4
5 パトロールの具体的活動要領	5
6 活動にあたっての留意事項	8
第2パトロール車両を運転する際の注意点	9

羽村市防災安全課



## 第1パトロールってどんなことをするの・・・？

### 1 パトロールの目的と種類について

活動の目的は、

- 誰もが安全で安心して暮らせることができる地域社会を実現させること
  - 犯罪・交通事故・火災の被害を未然に防止すること
  - 地域住民の防犯・交通事故・火災等の意識を高めること
  - 地域の連帯感を醸成して犯罪抑止機能を向上させること
  - 危険箇所を点検して改善すること
- などがあります。

その目的を達成するための活動として、

- ① 地域住民への被害の未然防止を目的とした声掛けや防犯指導
  - ② 非行防止や子どもの被害防止を目的とした青少年などへの声掛け
  - ③ 犯罪や交通事故や火災が発生しやすい危険な場所の点検や警察署及び消防署などへの情報提供
  - ④ 犯罪や事故や火災を発見した際の警察署及び消防署などへの通報
  - ⑤ 不審者（車）などを発見した際の警察への通報
  - ⑥ 学校周辺や通学路のパトロール
  - ⑦ 迷子や傷病者などの救護を要する者を発見した際の警察署及び消防署等への通報と一時的な保護
- などがあります。

みなさんが行なうパトロールは、犯罪者に対して大きな抑止力がある一方で、法的な権限を有する警察官が行なうパトロールとは違いますので、犯罪や不審者（車）を発見したときは、絶対に実力行使はしないで、警察署や消防署に通報してください。

## 2 基本的な心構えについて

パトロールは、「自分たちのまちは自分たちで守る」という気持ちさえあれば誰にでもできます。地域の安全・安心のための、地域住民による愛する我がまちを見守る活動ですので、堂々と胸を張って行ないましょう。

実施するにあたっては、次のことに配慮してください。

### ◎ 気楽に！

気負わず、肩肘張らず、日常の生活の一部として気楽に取り組みましょう。

### ◎ 気長に！

短期間では、パトロールの効果は実感できないものです。気長に続ければ、やがて顔見知りの子どもや地域住民も増えて地域安全の輪が広がり、犯罪の起きにくい環境がつくられていきます。

### ◎ 危険なく！

せっかくパトロールをしても、事故にあったり怪我をしたりしたのでは継続は困難です。

危険な場面では無理をせず、警察署や消防署に通報  
しましょう。

### 3 パトロールの種類について

パトロールにも様々な活動方法が考えられます。地域の実情や犯罪の発生実態に即して、みなさんのスタイルに合った防犯パトロール方法を選びましょう。

#### ★ 徒歩によるパトロール

トラブル防止や緊急事態、警察署や消防署等への通報に備え、2人以上（2～5人）程度で小規模な班（チーム）をつくり、犯罪が多発している地域

例えば

○空き巣などの侵入犯罪が多発している住宅地

○幼児や小学生の通学路や公園等（声掛け、性犯罪）

○ひったくりなどの街頭犯罪が多発している地域

などの住民が危険や不安を感じている場所などを歩いてパトロールをします。帽子・ジャンパー・腕章・タスキなど統一的な服装を身に付け、場合によっては、啓発チラシなどを配布し、住民への注意喚起を行ないます。

#### ★ 自転車によるパトロール

「防犯パトロール中」等を表示したステッカーを貼付した自転車に乗り、2台～3台程度で、犯罪が多発している地域などを巡回パトロールします。

#### ★ 自動車によるパトロール

「防犯パトロール中」等を表示したステッカーを貼付した自動車に2人以上が乗車し、犯罪が多発している地域などを巡回パトロールします。

#### ★ 子どもの見守りパトロール

子どもの登下校時間帯に学校、児童公園の周辺や通学路の警戒に当たります。子どもたちは、地域の大人が守ってくれているという安心感、信頼感を得ることができ、地域の絆も深まります。通学路では、のぼり旗やホイッスルの活用も効果的です。

#### ★ ながらパトロール

愛犬の散歩やジョギング、買い物などを兼ねてパトロールをする「ながら」パトロールは、日常生活のなかで無理なくできるので、多くの人が気軽に参加することができます。

愛犬の散歩での「わんわんパトロール」は飼い主が腕章やタスキを付ける場合もあれば、リードに「パトロール中」と表示するケースもあります。犬を連れているので、地域の子ども・老人などとコミュニケーションをとりやすいというメリットがあります。

## 4 パトロールの服装や持ち物

### (1) 服装

パトロールを実施する際には、昼・夜間を問わず、蛍光色等の目立つ服装で実施してください。団体として活動する場合は、活動しやすい統一的な服装で実施しましょう。

そうすることで

- 犯罪を行おうとする者や不審者に警告を発すること
- 地域の皆さんにパトロール中であることをアピールすること
- みなさん自身を交通事故などの危険から守ることにつながります

### (2) 持ち物

#### ▲ 懐中電灯・ペンライト

夜間パトロールの際は、実施効果を高め、危険を回避するために、懐中電灯ペンライト等の照明器具を携行しましょう。

#### ▲ 防犯ブザー・ホイッスル

自分や仲間の身に危険を感じたときや、犯行を目撃したが近づくことが出来ないときに周囲に知らせるために携行しましょう。

また、電池残量などのチェックを忘れずに。

#### ▲ 携帯電話機

仲間との連絡や警察・救急隊等への通報手段として、携帯電話を携行しましょう。

#### ▲ デジタルカメラ

パトロール中に発覚した問題箇所を写真撮影などしていれば、関係機関に説明する際に役立ちます。余分な紛議を起こさないようにプライバシーには十分配慮をして撮影をしましょう。

#### ▲ メモ帳・筆記具

犯罪、不審者を発見したときや危険箇所を発見したときに記録しましょう。

#### ▲ パトロール日誌

パトロールの結果については、必ず記録を残しましょう。実施した時間やコース、パトロール中に気付いたことなどの記録を残し、次の人に注意事項を引き継ぐことでパトロールが一層効果的なものになります。

## 5 パトロールの具体的活動要領

犯罪の起こりやすい地域を巡回して犯罪の抑止を目指すか、危険箇所を点検して環境改善を目指すか、パトロールの実施目的によってその活動要領が異なります。

「今日のパトロールは〇〇を重点的にしよう」ということをメンバーの間で共通した目的意識を持ったパトロールを行なうことが大切です。

### ○犯罪の未然防止のための声掛けや子どもの被害防止のための防犯指導

実施時間・場所は、地元の警察署や交番から地域の犯罪情報等を参考にして、地域の実態に沿った時間・場所を選定してください。

犯罪を行なおうとする者は、現場を下見します。下見した際に、住民や通行人から挨拶されたり、声を掛けられたりすることを嫌います。

相手としては、「見られている。顔を覚えられた。」と警戒するので、見せる活動で犯罪者を遠ざけましょう。

#### ● 公園などの遊び場に異常はないか

放課後、子ども達が安心して遊べるよう、警戒や点検が必要です。夕暮れ時に子どもが遊んでいたら、早めの帰宅を促しましょう。また、恐喝や性犯罪などの被害場所となりやすいトイレや植込みの裏側など見通しの悪い場所にも目を光らせましょう。

#### ● 子どもに声をかけている人・車両はないか

不審人物や不審車両がないかなど、子どもや地域の安全を確保するために、登下校時間帯は重点的なパトロールが必要です。車内から子どもに声を掛けたり、子どもを人目の付かない場所へ連れて行ったりしている不審者を見かけたら、子どもに「こんにちは！」などと声を掛けてみましょう。

### ○ 非行防止を目的とした青少年などへの声掛け

青少年に対しては、次のような行為を見かけたら、毅然とした態度で声を掛けてください。

- 少年達が、飲酒・喫煙などの不良行為をしているとき
- 自転車などに 2 人乗りしているとき
- このまま放置すれば事故や犯罪の被害に遭う可能性があるとき
- その他、社会通念に照らして適切でない行為をしているとき

その際、少年達が言うことを聞かない場合は、すぐに 110 番通報してください。いくら相手が子どもだからといって、実力行使は絶対に止めてください。

また、少年達に学校名、名前などを聞くことは、のちのち少年達や保護者と思われぬトラブルとなることがありますので気をつけてください。

公園やコンビニの店先など、少年のたまり場となっている場所をパトロールルートに加えましょう。少年たちにパトロールをしている姿を見せるだけでも抑制効果があります。

○ 犯罪や交通事故、火災が発生しやすい危険な場所への点検や警察署及び消防署などへの通報

皆さんの周りには、犯罪や事故、火災などを誘発する危険な場所はありませんか？

危険箇所を点検するのもパトロールの大切な活動の一つです。

● 街路灯の設置が必要な暗い場所はないか

暗い道路は、ひったくりやチカンなどが発生するおそれがあります。

住宅街では、各家庭が門灯を点灯するだけで犯罪の起きにくい明るい町並みとなります。

● 廃屋、空き家などに異常はないか

廃屋や空き家などは、犯罪の温床になりやすい場所です。また、放火されたり、不良少年のたまり場となる恐れもあります。管理者などに改善を働きかけましょう。

● 落書きや不法投棄はないか

落書きや投棄されたゴミ、放置自転車等を放っておくと、これらが地域の「割れ窓」となって、その地域のモラルが低下し、環境も悪化します。

環境の悪化は犯罪の増加に繋がりますので、地域で早めに措置しましょう。

○ 犯罪や事故、火災を発見した際の警察署や消防署などへの通報

犯罪現場や事故や火災現場に遭遇した場合は、人任せにするのではなく積極的に110番、119番通報を行ってください。

そして、目撃した時間や状況等をメモしておいてください。

● 110番通報の際は、慌てることなく係員からの質問に順序よく応えてください。

● 住居表示がなく、町名番地が分からない時は、

- ・ 近くにある有名な施設や建物などの目標
- ・ 「交通標識」の支柱に表示してある番号
- ・ 「交通信号機の制御柱」に表示してある番号
- ・ 電力会社やNTTの「電柱」に表示してある番号

を教えてください。

○ 不審者に遭遇したら積極的な声掛けを

実際に不審者に遭遇したとき、あるいは声をかけられたときには、毅然とした態度で、尋問調にならないように対応をしましょう。

- 大きな声で「こんにちは」とあいさつ
- 自分たちは何者かを短く説明
- 不審者から離れた後も振り返って確認

そして、迷わず110番【警察】へ通報してください。

犯罪者は声をかけられることを極端に嫌います。声をかけられたことで、犯罪者は「顔を見られた」と思い犯行を断念することもあります。

また、不審者に声をかけたところ逃げ出した場合には、追いかけて捕まえたりせずに、人相、服装、逃走方向などをメモして、直ちに警察に連絡しましょう。

○ 迷子や傷病者などの救護を要する者を発見した際の通報と一時的な保護

負傷者の有無を確認するとともに、直ちに110番、119番通報をしましょう。

警察官や救急隊員の到着を待つ間、負傷者には応急救護処置を施しましょう。

## 6 活動にあたっての留意事項

### ■ 防犯知識を身につける

警察などが行う防犯講習会に参加して防犯知識を身につけましょう。

また、警視庁のホームページ、「メールけいしちょう」などを登録して、最新の犯罪発生状況や被害防止対策を頭に入れておきましょう。

### ■ 声掛けは、肩肘を張らない挨拶から

「おはようございます」「こんにちは」と声をかけられて嫌な気分になる人は悪いことを考えている人かもしれません。地域のみなさんが声をかけ合うことにより、地域の連帯感が生まれます。

### ■ 少年に対する時は、「健全育成の精神」を忘れずに

少年を頭ごなしに怒らず、我が子に諭すように優しく接しましょう。寂しい状況の少年が、愛情のある大人からの声かけを待っているかもしれません。

### ■ 警察署等への通報・連絡は早めに

明らかに罪を犯そうとしている不審者を発見したときは、直ちに警察に通報しましょう。警察への通報が早ければ早いほど、被害の拡大防止と検挙の確率は高くなります。

### ■ プライバシーを尊重し、パトロールで知り得た情報は他言しない。

パトロール中には、地域の様々な情報が入ってくるかもしれません。その中には他人に知られたくない情報もあります。誰もが自分の家庭等には干渉されたくないものです。パトロール中に知り得た他人のプライバシーは他言することなく秘密は守りましょう。

### ■ 交通事故には気をつける。

夜間は夜光ベストや反射板をつけるなど、できるだけ目立つ服装で、集団で行動し、運転者から見えやすいように心がけ、交通事故に十分注意しましょう

### ■ パトロール後には仲間同士で情報交換を

ただパトロールして終わりではなく、結果について情報交換をすることにより、危険な場所の改善、共通認識でのパトロールが可能になるなど、より細やかなパトロールが出来ることとなります。

## 第2 パトロール車両を運転する際の注意点

① パトロール中は模範運転に心がけましょう。

運転中は、常に周りの人に運転を見られていることを意識し、シートベルトの着装等交通法規に従った模範運転に心がけましょう。

② だらう運転はしない！

「避けるだらう」「止まってくれるだらう」「飛び出さないだらう」等の予測運転は行なわず、「かもしれない」と防御的な運転に心がけましょう。

青色回転灯を装備した車両を運転する場合は、意識が予測運転につながりやすいので、十分注意、自制に努めてください。

③ 心にゆとりを持った運転を行いましょう。

気持ちのあせりやいらだちは交通事故の原因の一つです。

心と時間に余裕がもてるように予め計画的に準備し、早めに出発するように心がけましょう。

④ 交差点では、必ず徐行または一時停止して左右の安全確認をしましょう。

交差点は、最も交通事故が多発する場所です。

特に信号機のない交差点や見通しが悪い交差点では、必ず徐行または一時停止し、同乗者と連携して安全を確認してから進行しましょう。

⑤ 運転者は携帯電話を使用しない。

運転中の携帯電話の使用は、道路交通法で禁止されています。パトロール車を運転する時は、携帯電話の電源を切るかドライブモードにしましょう。

警察への通報や団体間で連絡が必要な場合は、同乗者にまかせ、それが出来ないときは、確実に停車させて連絡をしましょう。

⑥ 車間距離を適正に 事故を回避する運転をしましょう。

追突事故の多くは、車間距離の不十分と漫然運転によるものです。天候や路面の状態を十分考慮し、先行車両が急停車しても安全に停車できる車間距離を保持して運転しましょう。また、重大事故につながりやすい無理な追いつき追い越しは絶対にしてはいけません。

以上の内容を注意して、安全なパトロールに心がけてください。